

塩谷郡市医師会だより

Contents

塩谷郡市医師会第64回定時総会
 塩谷地区おとな・こども夜間診療室
 学術講演会報告
 2011.3.11 東日本大震災発生
 シリーズ「塩谷医療史」8

社団法人 塩谷郡市医師会
 広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

塩谷郡市医師会第64回定時総会開催



平成23年4月16日(土)、さくら市氏家保健センター集団指導室において開催された。総会に先立ち、平成22年度にご逝去された高瀬慎三先生、檜山猛郎先生に黙とうをささげた。総会出席者24名、委任状出席者52名の計76名で定足数に達し定時総会が成立した。

議長の阿久津博美先生の議事進行のもと、以下の全議案が承認された。

■ 第1号議案 平成22年度塩谷郡市医師会事業報告並びに収支決算の承認を求める件

山田会長から平成22年度に行われた医学講座、産業医講習会、市民講座、脳卒中関連の医療連携推進事業、塩谷医療圏医療機関一覧の配布などについて報告があった。また、収支決算については会計担当の池田理事から説明の後、江口監事から関係帳簿および諸証拠書類が正当である旨の報告があり、承認された。

■ 第2号議案 平成23年度塩谷郡市医師会事業計画並びに収支予算の議決を求める件

■ 第3号議案 会館建設準備積立取崩の承認を求める件

山田会長から平成23年度に予定されている事業計画案が示され、池田会計担当理事から予算案について説明があり、また第3号議案の開館準備積立を取り崩しについても説明があり、承認された。

■ 第4号議案 本間玄規理事退任に伴い新理事の承認を求める件

本間玄規理事退任に伴い、高根沢町の高橋雄二先生を新理事に任命することについて全会一致で承認された。

■ 第5号議案 定款変更案の停止条件付決議に関する件

当医師会は明治29年民法制定に始まった民法34条による公益法人として活動してきたが、公益法人制度改革で民法34条が平成20年12月1日に廃止され、5年間の猶予期間内に公益法人か一般法人のどちらに移行するかを選択する必要がある。役員会の検討で、本医師会は一般社団法人への移行方針が決められたが、移行にあたって新定款案の承認が求められた。糸川事務長から、経緯や新定款案について説明があり、質疑応答の後に、承認された。

塩谷郡市医師会定時総会の後、栃木県医師連盟塩谷郡市支部の第10回通常総会が行われた。両総会の終了後、さくら市のカーラ・ロゼッタにおいて親睦会が開かれた。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	糸川 shioya@triton.ocn.ne.jp 高橋 takahashi@e-shioya.jp

塩谷地区おとな・こども夜間診療室開設

昨年、役員会や準備委員会で開設について検討されていた夜間診療室が会員 34 名の協力で 4 月 1 日から開設されて診療が始まった。名称は「塩谷地区おとな・こども夜間診療室」で日曜祝日は黒須病院と塩谷病院に隔月で開設、土曜日は毎週黒須病院のみの開設となる。診療時間は 18 時 30 分から 21 時 30 分である。平成 18 年 4 月に始まった塩谷地区こども診療室は小児の診療に特化していたが、今度の夜間診療室は小児ばかりでなく大人の診療も行ない、土曜日夜間の診療を行う。また、日曜日の診療は小児科担当医師と内科担当医師の二人体制である。始まったばかりなので市民への浸透はこれからであるが、出だしは好調である。

月	日	曜	場所	おとな (人)	こども (人)	合計 (人)
4	2	土	黒須	2	3	5
	3	日	黒須	1	12	13
	9	土	黒須	1	0	1
	10	日	黒須	1	5	6
	16	土	黒須	2	6	8
	17	日	黒須	3	10	13
	23	土	黒須	1	6	7
	24	日	黒須	0	7	7
	29	祝	黒須	1	7	8
	30	土	黒須	3	2	5
5	1	日	塩谷	3	13	16
	3	祝	塩谷	2	13	15
	4	祝	塩谷	0	10	10
	5	祝	塩谷	2	7	9
	7	土	黒須	2	2	4
	8	日	塩谷	1	6	7

学術講演会報告

『糖尿病・慢性腎臓病 (CKD)』

日時：平成 23 年 2 月 8 日 (火)

講師：済生会宇都宮病院腎・内分泌科医長
藤田 延也先生

栃木県委託事業として糖尿病および慢性腎臓病 (CKD) の早期発見・進展予防を目指すために、糖尿病・慢性腎臓病 (CKD) 研修会が行われた。

学術講演会報告

『脳卒中の医療介護連携について』 ～ 廃用症候群を予防するために～

日時：平成 23 年 2 月 15 日 (火)

講師：栃木県医師会塩原温泉病院院長
森山 俊男先生

栃木県委託事業の主治医研修会として栃木県に多い疾患のひとつである脳卒中について、医療と介護の連携をテーマに行われた。

学術講演会報告

『夜間・休日診療所のための救急初期対応』 ～ よくある症状をどう判断するか～

日時：平成 23 年 3 月 8 日 (火)

講師：大田原赤十字病院第一救急部長
長谷川 伸之先生

4 月から始まる塩谷地区おとな・こども夜間診療室に参加する先生の救急医療の講習会の一環として開催された。

平成 22 年度救急に関する研修会

『頻度の高い小児救急疾患の診かた』

日時：平成 23 年 1 月 27 日 (木)

講師：国際医療福祉大学塩谷病院院長
江口 光興先生

栃木県委託事業で栃木県医師会主催の小児科診療医研修会が行われた。4 月から始まる塩谷地区おとな・こども夜間診療室に参加する先生が多く出席した。

なお、3 月 15 日 (火) に予定されていた獨協医科大学神経内科平田幸一教授の学術講演会と 3 月 13 日 (日) に予定されていた栃木県と塩谷都市医師会主催の地域医療フォーラム「ストップザ地域救急医療崩壊！」は 3 月 11 日の東日本大震災のため、中止となった。

2011.3.11 東日本大震災発生

3月11日、東北地方を中心にM9.0の未曾有の東日本大震災が起きた。東北地方は震度7、本県でも震度6強-5強の揺れがあり、塩谷地区医療機関の中には建物や医療機器、駐車場の被害があったところもある。また、直後に起きた停電や断水のため、医療の継続が困難な状態が起きた。塩谷地区で唯一、水道電気などのライフラインが無事だった塩谷町の医療機関には他地区からワクチンの保管や医療器具の消毒の依頼があった。また、緊急停止した新幹線の乗客が塩谷中学校のアリーナに収容された。塩谷地区の各医師団は避難者等の対応について各行政と連絡を取って対応した。

塩谷町の小島先生が尾形医院の職員とJMATのチームを組み、尾形新一郎先生とともに各医療機関から提供された医薬品を宮城県石巻赤十字病院まで届け、医療活動を行った。

また、塩谷郡市医師会では会員からの義援金の取りまとめを行い、660,000円を栃木県医師会を通して日本医師会に寄付した。



Hib(ヒブ)、肺炎球菌ワクチン公費接種に

4月1日からHib(ヒブ)ワクチンと小児肺炎球菌ワクチン(プレベナー)が全額公費で行われることになった。2市2町での乗り入れも行われる。また、大人の肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス)に対する補助も矢板市、さくら市、高根沢町で行われ、乗り入れとなる。塩谷町は今年度は大人の肺炎球菌ワクチンの公費補助はないのでご注意ください。

医療機関一覧配布



塩谷医療圏医療機関一覧が塩谷地区の全世帯43,128戸に配布された。各家庭で利用されることが期待される。

平成23年度郡市医師会行事予定

平成23年

- 4月16日(土) 第64回定時総会
- 5月9日(月) 第1回総務会
- 5月23日(月) 第1回役員会
- 7月11日(月) 第2回総務会
- 7月25日(月) 第2回役員会
- 7月29日(金) 納涼会(さくら市)
- 9月25日(日) 市民公開講座(高根沢町)
- 11月28日(月) 第3回総務会
- 12月12日(月) 第3回役員会

平成24年

- 1月27日(金) 新年会(塩谷町)
- 2月20日(月) 第4回総務会
- 3月5日(月) 第4回役員会

本間玄調（棗軒）

幕末の日本にタイムスリップした脳外科医が、感染症などで苦しむ当時の人々を救うために、現代の医療知識をもとに近代医療を実現していくテレビドラマ「JIN - 仁 - 」が放送され、高視聴率を上げている。原作もそうだが、ドラマのほうも日本医史学会理事長の酒井シヅ順天堂大学特任教授が監修しており、当時の医療事情がよくわかる内容となっている。

当時の医療について簡単に触れると、1774年、杉田玄白、前野良沢らが「解体新書（ターヘルアナトミア）」を翻訳・出版したことが起爆剤となって日本中で蘭学が盛んとなる。また、同時期に人体解剖（当時は腑分けといった）も行われるようになり、西洋医学（解剖学）の正しさが証明される。その後、シーボルトやポンペラ医学教育に熱心な外国人医師が長崎に来日し、外科を中心に西洋医学を広めたことで、西洋医学が日本に定着する。一方、各地に蘭方医学の私塾が設立され、多くの医師が学ぶようになる。幕末の頃の私塾では、緒方洪庵の適塾（大阪）と佐藤泰然の順天堂（江戸）が有名だが、順天堂は特に医学教育と外科医療では異彩を放ち、東の長崎とまで称されるようになる。適塾は大阪大学医学部の前身であり、順天堂は順天堂大学医学部の前身である。蛇足だが、日本の医学部の中で医史学研究室があるのは唯一順天堂大学だけである。

有吉佐和子の小説「華岡青洲の妻」で有名となった華岡青洲は、1804年世界で初めて烏頭（トリカブトの一種）を主成分とする通仙散という麻酔薬を使用して乳がん摘出手術を行った。

その青洲の外科を完成させたといわれているのが水戸藩の本間玄調である。玄調は1804年に常陸國小川村の代々医の家系に生まれ、華岡青洲、シーボルトに学んだ後に水戸藩医となり、水戸弘道館医学館教授となる。外科医として優れていたばかりでなく、門人教育にも熱心で、多くの著述を世に出している。また、天然痘の予防接種である牛痘種痘の普及にも尽力した。号を棗軒といい、後に水戸藩主徳川斉昭から、多くの人命を救ったことから「救」という名を賜った。

実は、水戸藩の本間玄調は塩谷地区と浅からぬ縁があるのである。高根沢町でつい先日まで整形外科医院を開業していた本間玄規先生は本間玄調の直系の子孫で、玄規先生の父上の名前は「棗（なつめ）」で、お二人とも名前を引き継がれている。さらに、幕末から明治初期に塩谷地区や那須地区、芳賀地区など下野国の東部地域で種痘の普及に尽力した医師たちの多くが水戸の本間玄調の門下生なのである。例えば、そのひとりとして喜連川藩医で明治初期の塩谷地区の医療行政のトップにいて、種痘医としても活躍した宮脇拾の名前を挙げられる。宮脇の名前の「拾」は喜連川藩主足利縄氏から人命を多く拾（救）った功から賜った。縄氏は徳川斉昭の十一男なので、父親のまねをしたということなのだろう。さらに、塩谷地区の古い医家には当時の医学書のベストセラーともいべき本間玄調著の「瘍科秘録」「内科秘録」などが残っている。ちなみに本間玄調の著作は復刻版も出ているので興味のある方はご一読をお勧めする。

（担当：岡 一雄）



本間玄調著「瘍科秘録」